

まちの話題

ISA City Topics

イーサキング「ひなたくんを救うのじゃ」

50万人に1人と言われる原因不明の難病「拘束型心筋症」と診断され、アメリカでの心臓移植手術を希望している霧島市の水流添日向くん（7歳）を応援する「ひなたくんを救う会」から、市公認キャラクター「イーサキング」が応援大使キャラクターに任命されました。

「イーサキングの力も借りて一刻も早く募金が集まるようにしたい」との思いを受け、応援大使を快諾したイーサキングは、早速2月9日・16日に鹿児島市や霧島市で募金を呼びかけました。救う会は、手術や渡航に必要な1億4500万円を今年3月末までに集めたいと活動しています。

詳しくは、「ひなたくんを救う会」<http://hinata-kun.net>をご覧ください。



第19回「氷の祭典」アイスカービング in 伊佐

1月25・26日に伊佐市の冬の一大イベント、「氷の祭典」アイスカービング in 伊佐が開催されました。

時折雷を伴う激しい雨に見舞われ、完成が例年より遅れましたが、今年も素晴らしい力作が並びました。

子どもたちに大人気の氷でできた滑り台も今年はライトアップされ、長蛇の列ができていました。

あいにくの天気にもかかわらず、多くの人たちが賑わいました。



昔の遊びを体験



2月12日、大口小学校1年生の児童が同校体育館で伊佐市レクリエーション協会の皆さんと昔遊びを体験しました。

6つに班分けされた児童たちは、お手玉、こままわし、あやとり、折り紙、はねつき、おはじきと、順番に挑戦した伝統の遊びに悪戦苦闘しながらも、協会の皆さんにコツを教わり、こまが上手く回ると笑顔を見せました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、児童からは次の訪問を期待する声が多く聞かれました。

「心から感謝」南三陸町長来市



東日本大震災被災地で伊佐市が職員を派遣している宮城県南三陸町の佐藤仁町長ら3人が2月3日、伊佐市を訪問されました。

職員派遣へのお礼を述べた後、町内第1号となる団地の造成工事が完了したことなど、復興の進み具合について報告されました。

これを受け、隈元市長は、「今後とも必要とされる人材を派遣し、早期復興にむけた支援を行う」とエールを送りました。

伊佐市の派遣職員は、復興事業の推進や税に係る業務を担っています。

葉たばこ「種まき」



1月22日、大口育苗センター（牛尾）で行われた葉たばこの豊作祈願では、育苗ハウスを塩と酒で清め、生産農家が今期の豊作を願いながら、砂と混ぜ合わせた種を丁寧に親床にまきました。

成長した苗は、2月中旬に各農家に配布され、農家が子床に仮植・育苗した後、3月中旬から田に定植します。

収穫は5月下旬から始まり8月お盆過ぎまで続きます。

- ・伊佐市の生産農家数：15人
- ・栽培面積：31.3ヘクタール

小さな天才をさがす「くらりか」



東京工業大学の同窓会（蔵前工業会）鹿児島県支部の皆さんが、今年も南永小学校にやってきました。「くらりか」今年のテーマは、「ペンローズ・タイルできれいな模様をつくろう」です。2種類のタイルを使って平面をすき間なく埋めていくジグソーパズルのようなもので、児童は、班ごとに計画をたて連携し、模様を完成させました。

「くらりか」は、科学をテーマとした寺子屋方式の出前理科教室です。授業では体感できない数学や科学の面白さに触れ楽しんだ子どもたち、将来は優秀な科学者誕生を期待できそうです。

1月26日は「文化財防火デー」



文化財防火デーは、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことをきっかけに制定されました。

以来、毎年この日を中心に、各都道府県教育委員会、各消防署、文化財所有者等の協力を得て、全国各地で防火訓練などの文化財防火運動を展開しています。

市内でも、1月26日に白木神社（県指定文化財）、郡山八幡神社（国指定文化財）、祁答院家住宅（国指定文化財）、箱崎神社（国指定文化財）で防火訓練等が行われました。

県選抜として全国大会出場



第10回 都道府県対抗全日本中学生女子ソフトボール大会

（3月28日～30日開催 静岡県）

田畑七海さん（大口南中1年）

「緑の募金」 子どもたちに自然体験を



2月12日、森林ボランティア団体「い～さ竹林の学校（緑の募金）」のメンバーに招待された羽月保育園の園児24人とよりあい処いろり（小規模多機能ホーム）の入所者が、シイタケの菌打ちや収穫を体験しました。

地元有志でつくるメンバーは、シイタケ菌を打つクヌギを用意したり、採りごろのシイタケを教えるなどして交流しました。

また、手作りの木製ブランコや竹トンボを楽しんだ園児たちは、お土産のシイタケと拾い集めたどんぐりを入れた袋を抱え、元気に「ありがとうございました。」とあいさつしました。

ふるさとを歌ったCD寄贈



ふるさとを題材にした16曲を収録したCD「昭和へ寄り道・帰り道」や「散歩がてら伊佐路」などを制作した神野政秀さん（篠原・65歳）が、「県外在住の伊佐市出身の皆さんに、ふるさとを懐かしんでほしい」と、完成したCDを伊佐市出身者でつくる「ふるさと会」と市内の小・中学校及び高等学校に寄贈しました。

有志の歌と演奏によって伊佐の特産品や情景が歌われています。

また、海音寺潮五郎記念銀杏文芸賞の受賞者が作詞した曲もあり、ふるさとの美しい自然やそこに暮らす人々の思いが豊かに込められた1枚です。

詳しくは、☎090-8763-6770（神野）までお問い合わせください。

人吉市と合同で防災訓練



1月23日、伊佐市と人吉市をつなぐ久七トンネルで防災訓練を実施しました。

トンネル内で多重衝突事故が発生したと想定し、消防、警察など関係機関が連携し、迅速な人命救助、搬送にあたりました。

今年に入り県内では交通事故が多発しており、市内でも交通死亡事故が発生しています。

運転者も歩行者も交通ルールとマナーを守り、交通安全に努めましょう。

農大全国大会「最優秀賞」受賞



2月18～20日、東京都で全国農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会が開催され、鹿児島県立農業大学校畜産学部2年の宮崎鈴奈さん（伊佐市出身）が九州ブロック代表として出場し、最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞しました。『不妊牛からの子牛生産～「経膈採卵－体外受精」技術の応用～』という課題で1年間の活動実践を発表しました。

また、2月13日、母校の伊佐農林高校の卒業生講話会で農林技術科1、2年生や地域の農業者にプロジェクト発表を行い研究の成果を披露しました。（写真）

将来は、畜産技術員として、鹿児島県の肉用牛生産を支える女性リーダーを目指しています。

チーム一丸タスキをつなぐ



1月26日に霧島市で第27回県地区対抗女子駅伝競走大会が6区間21.0975kmで、また、2月15日から19日までの5日間鹿児島路で、第61回県下一周市郡対抗駅伝競走大会が53区間総距離588.6kmを12地区で競って走り継ぎました。

社会人から中学生までの幅広い世代の選手は、互いに競い合い年間を通して練習に励みました。郷土の思いをタスキに込めてレースに参加し、沿道からの熱い声援に伊佐チーム一丸となって粘りを見せ全力で走り抜き「1秒を大切に」タスキをゴールまでつなぎました。

選手・関係者の皆さん、「元気」と「感動」をありがとうございました。

鬼は～外、福は～内



2月3日、市役所にかわいい豆まき隊が来ました。大口庁舎にはみどり保育園、菱刈庁舎には本城保育園の園児たちです。

みどり保育園の園児たちは、自分で作った鬼のお面をかぶって庁内を回り「鬼は～外、福は～内」と元気の掛け声をかけながら、悪そうな鬼に扮した職員に勢いよく豆をまきました。

途中現れた鬼のお面をつけたイーサキングに、大喜びの園児たちは豆まきを忘れ、記念撮影に夢中になっていました。